

ダイズにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの 夏期多発型の発生活長と天敵の影響

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成12年度，ダイズにおいてジャガイモヒゲナガアブラムシが広域的に発生した。通常年とは異なり，夏期に高密度となり，吸汁加害による葉の黄化・褐変，早期落葉により収量・品質に大きな影響を受けた。平成13年度も同様に夏期多発型の発生が起こり，その発生活長と天敵の寄生時期について検討したので参考資料とする。

2 参考資料

1) ジャガイモヒゲナガアブラムシのダイズへの寄生は，平年では初生葉が展開した6月中旬から認められ，6月下旬にかけて増加したのち減少し，7月以降は低密度で推移する。夏期多発型の発生では8月に入ってから再び密度が上昇し始め，8月下旬から9月上旬にピークとなる。その後は徐々に減少するが，葉の褐変化が進行し早期落葉する（図2）。

1) 寄生蜂（アブラバチ類）の寄生率（マミー発生率）は，7月上旬と9月中・下旬に高い。特に7月上旬は，ジャガイモヒゲナガアブラムシの密度が低下した時期と一致することから，寄生蜂がジャガイモヒゲナガアブラムシの発生を抑制する大きな要因と考えられる（図1，図3）。

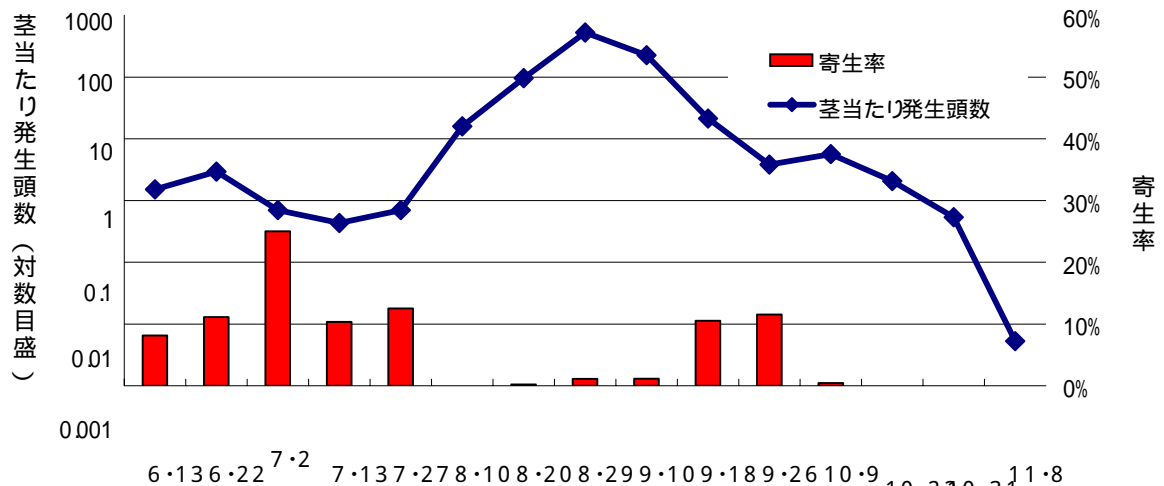


図1 茎当たりジャガイモヒゲナガアブラムシの発生頭数と寄生蜂による寄生率の関係
(平成13年,古川農試,ミヤギシロメ,病害虫無防除)

3 利活用の留意点

1) ジャガイモヒゲナガアブラムシの要防除水準については，今後検討する必要がある。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

水田生態系における生物機能を活用した減農薬病害虫制御技術の確立（平成13年）

2) 参考データ

a

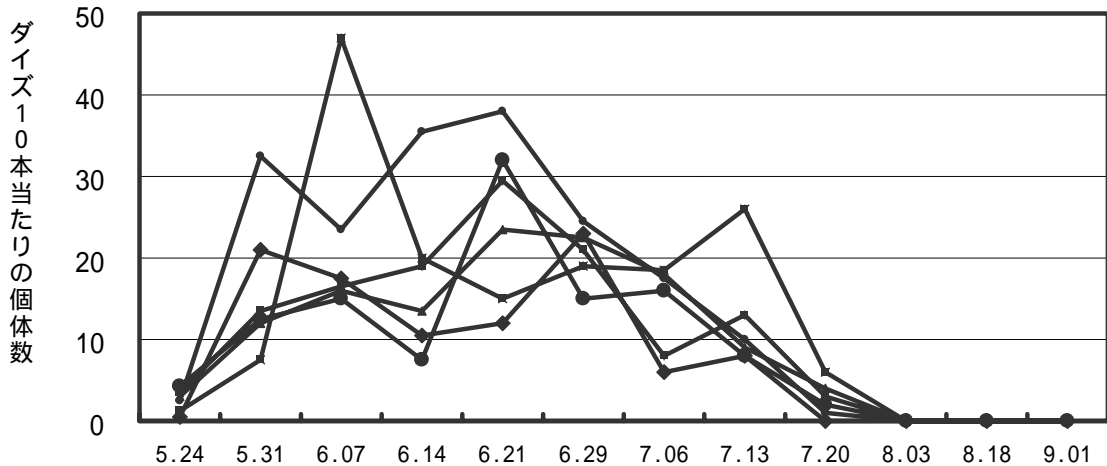


図2 ジャガイモヒゲナガアブラムシ(幼虫,無翅胎生雌虫)のダイズ6品種における発生消長(盛岡市)
*本多ら(1990)を一部改変

注) ジャガイモヒゲナガアブラムシの密度は7月中に低下し,夏期は低い密度で推移している。
6品種ともほぼ同様の発生経過を示している。
通常年は,宮城県においてもこのような発生消長であると考えられる。

b



図3 寄生蜂の寄生によるマミー

注) アブラムシの体内に寄生した卵からふ化した寄生蜂の幼虫は,寄主体内の組織・器官を食べ尽くすと,分泌液でアブラムシを植物体などに固着し,アブラムシの薄い外皮を裏打ちするようにして繭を紡ぐ。アブラムシの薄い外皮は,分泌液との反応で硬くなり,蜂のグループに特異的な色に変わる。アブラバチに寄生されたジャガイモヒゲナガアブラムシの場合は,光沢のある淡黄褐色となる。このような被寄生アブラムシをマミー(ミイラ)という。

3) 発表論文等

a 第46回日本応用動物昆虫学会大会発表予定

b 第55回北日本病害虫研究発表会発表